

松戸市立図書館資料収集方針

(目的)

第1条 松戸市立図書館図書選定基準に基づき、図書館資料の収集に際しての必要事項を定めることを目的とする。

(収集の方針)

第2条 各館は、その施設の規模及び館の機能に応じた蔵書構成に留意し、松戸市立図書館として体系的な資料の充実を図る。

2 資料の種類は、図書、逐次刊行物等の印刷物のほか、視聴覚資料、電子資料等、環境の変化、時代の要請をみながら積極的に収集する。

3 資料の範囲は、すべての分野にわたり、一般的資料から専門的資料まで幅広く収集する。

4 資料の選択においては、所蔵資料の内容、利用者の要求、著者、発行所、書誌的価値、形態等を検討し収集する。

(各館の収集方針)

第3条 本館は、松戸市立図書館の中心館として各分館が収集する一般図書資料のほか、市民の教養・調査・研究等に資するため、基礎的、入門的なものから必要に応じて専門的なものまで幅広く収集する。また、各分館のサービスを補完する資料の収集に努め、潜在的要求にも対応できるよう資料価値の高いものを積極的に収集する。

2 参考資料は、全分野にわたり、学術的、社会的に価値のあるものを積極的に収集し、市民の日常の調査研究のために必要な参考図書(辞典・事典・年鑑・白書・便覧・地図等)は幅広く収集する。

3 地域資料は、松戸市に関する図書、新聞、行政資料、地図等、可能な限り収集し、千葉県及び県内市町村に関する資料については、基本的資料、歴史的資料及び松戸市に關係する資料を中心に収集する。

4 視聴覚資料は、趣味、教養又は文化活動に資するため、クラシック・ポピュラー・邦楽・民族音楽・落語・朗読・記録等、評価の定まった、代表的演者の作品を中心に網羅的に収集する。

5 大活字図書資料等、高齢者及び障害者に配慮した資料は、積極的に収集する。

6 本館以外の各分館は、市民の多様な要求を考慮し、地域に根ざした親しみのあるサービスを展開するため、市民の一般教養、実用、趣味及び娯楽等、多くの利用が予想される資料を主に収集する。

7 各館とも、改訂版等に留意し、最新の情報を収集する。継続的に出版される資料については、欠本が生じないように注意する。切り取り・書き込みを前提にした資料、特殊な付録付き資料、一枚ものの楽譜等は収集しない。

(資料保存)

第4条 市民の教養、調査研究に資するため、普遍的価値の高い図書資料及び資料提供に相応しい状態の資料を保存し、提供していくものとする。

分類別収集基準

1 総記(0類)

- (1) 百科事典、年鑑類は調査・研究に利用することが多いので、計画的に継続して類書も含め豊富に収集する。
- (2) 情報科学関係書は、時代の動向と進展に注意を払い収集する。
- (3) 新聞の縮刷版は、継続的に収集する。
- (4) 図書館・図書館学及び読書に関する資料を網羅的に収集する。

2 哲学(1類)

- (1) 哲学・宗教・心理学関係の基本的古典書は、体系的に収集する。
- (2) 人生訓の図書は、出版点数が多いので類書に注意して、考慮して収集する。
- (3) 宗教関係書は、特定の宗派に偏らないように考慮し、各宗・各派の基本的解説書及び教養的な信仰入門書や禅などの実践的なものを収集する。
- (4) 心霊研究・占いについては、最小限の収集とし、興味本位な内容のものは収集しない。

3 歴史(2類)

- (1) 特定の学派・学説・歴史観に偏らないよう、多様な観点にたった資料を収集する。
- (2) 通史、世界史は歴史の変化が理解できるように、全体を網羅しているものを収集する。
- (3) 日本史は、出版点数が多いので歴史読み物、入門書、概説書、専門書等のバランスを考慮して収集する。
- (4) 各国史、各地方史は、地域的な偏りなく網羅的に収集する。
- (5) 地図・ガイドブック等は、国内国外とも豊富に揃え、可能な限り新しい情報を提供するように努める。

4 社会科学(3類)

- (1) 社会科学は、さまざまな学説や主張がある分野なので、多様な観点に立った資料をバランスよく、偏りなく収集する。
- (2) 各国の文化、社会情勢については、幅広く常に新鮮なものを収集する。
- (3) 代表的な思想家の資料及び古典的著作を収集する。
- (4) 政治学は、多様な観点に立った資料を偏りがないう、幅広く収集する。
- (5) 人権に関する図書を幅広く収集する。
- (6) 法律書は、入門書、実用書から専門書までバランスよく収集し、法改正に対応して、常に新しいものを提供できるよう、資料の更新に留意する。
- (7) 経済書は、古典的な著作はもちろん、入門書、実用書から専門書まで最新の資料を提供できるよう、バランスよく収集する。
- (8) 企業・経営関係の図書やビジネス書は、類書の有無を考慮して収集する。
- (9) 税金、年金、保険等の関係書は、生活に密着した内容であり市民の利用も多いので、改正に対応して常に最新でわかりやすいものを豊富に収集する。
- (10) 社会問題に関する資料は、各々の分野の入門書、古典などの基本書をそろえ、常に社会の動向に注意して収集する。
- (11) 生活、家庭、社会福祉等は、生活に密着し市民の利用も多いので、幅広く新しいものを収集する。

(12) 教育書は、市民にとって関心の高い分野なので、多様な観点に立った資料を積極的に収集する。

(13) 冠婚葬祭については、実用的で新しい資料を積極的に収集する。

(14) 国防・軍事関係書は、特定の立場や考え方に偏ることなく収集する。

(15) 学習参考書、資格試験等の問題集は収集しない。

5 自然科学(4類)

(1) 自然科学は、進歩と変化が著しい分野なので、最新の情報を常に提供できるよう資料の収集に努める。

(2) 全般的に特定の主題に偏らないよう、入門書、解説書を中心にバランスよく収集する。

(3) 医学的根拠のない治療法・健康法を紹介したものは出版点数が多いので、内容に注意して幅広く収集する。また、医師や医学生を対象とした専門書は収集しない。

6 技術・工学(5類)

(1) 科学技術の進歩は著しく変化も激しいので、新しい理論や技術の資料を偏りなく考慮して収集する。

(2) 科学技術への関心や興味が深められるような、わかりやすく書かれたものから専門的なものまで幅広く収集する。

(3) 通信技術やコンピュータの分野は、技術開発が早く変化が激しいので、新しい資料の収集に努める。

(4) 家政、生活科学書は、生活に役立つ多種類の実用的な最新の資料を収集する。

7 産業(6類)

(1) 各産業の資料は、基本的技術に関するものを収集する。

(2) 実務や趣味に役立つ資料は、出版点数が多く利用頻度も高いため、実用的でわかりやすいものを収集する。

8 芸術(7類)

(1) 芸術・美術・スポーツに関する鑑賞・評論及びその制作・実技の両面について幅広く収集し、新しい分野についても迅速に情報提供ができるよう努める。

(2) 美術全集・画集・写真集は、活字図書とは異なる効果を有するので、総合的に編集の優れた図版、写真の再現が良好なものを収集する。

(3) 写真集は、各賞受賞作品や主題を絞ったものを収集する。

(4) 一般向きに描かれた漫画については、評価の定まった作品を厳選する。なお、漫画を単なる説明の手段としているものは、主題になっている分野の収集基準により考慮して収集する。

(5) スポーツ関係書は、各種目を幅広く収集し、新しいスポーツも積極的に収集する。

(6) タレント本は、内容に注意して慎重に収集する。

(7) 諸芸、娯楽書は、歴史から理論・技法書まで解説がわかりやすいものを幅広く収集する。

(8) 囲碁・将棋などについては、初心者向きから上級者向きまで多様に収集する。

(9) アイドル歌手やタレント等の写真集は、収集しない。

(10) 展覧会・演劇・映画等のパンフレット類や楽譜・教則本及びゲームソフトのマニュアル本は、収集しない。

9 言語(8類)

- (1) 言語に関する入門書、概説書及び主要な著作を中心に収集する。
- (2) 旅行やビジネスに役立つ、実用的な資料を豊富に収集する。
- (3) 式辞、挨拶、司会、手紙の書き方等の実用書は、類書の有無を考慮して収集する。

10 文学(9類)

- (1) 日本及び各国の文学作品について、幅広く収集する。
- (2) 各国の文学とも基本となる文学史を揃え、古典作品の収集にも努める。
- (3) 市民の関心が高く、最も利用頻度の高い分野なので、各ジャンルにわたって体系的に、可能な限り幅広く収集する。
- (4) 個人全集、選集は、ジャンルを問わず、古典的に評価が定まった作家、ポピュラーな作家のものをできるだけ幅広く収集する。
- (5) 日本の古典文学作品は、原典を中心に現代語訳に留意して収集する。
- (6) 詩歌、戯曲等は、主要な作家のものを中心に幅広く収集する。
- (7) 現代小説は利用頻度が特に高いため、適宜複本を購入し買い替えをして、常に利用者の要求に積極的に対応できるよう配慮する。また、一過性のものや興味本位に書かれたものも多いので、内容に注意して慎重に収集する。
- (8) エッセイは文学的な評論から身近な感想まで、幅広い内容が含まれるので、多角的な評価を行い収集する。コミックエッセイ的なものについては、内容に注意して慎重に収集する。
- (9) ルポルタージュは、事実に対する視点が明確で、著者による調査が行き届いたものを収集する。
- (10) 外国文学は、古典から現代作品までを幅広く収集する。外国文学の動向に注意を払い、欧米に偏らず、各国の文学作品を収集し、翻訳者の違い等にも留意する。